

2019年前期 観測実施要項

1. 「クラシカル観測」実施要項

クラシカルモードは、各観測課題に一定期間を割り当てる観測モードです。観測作業は観測提案者が現地で行います。今期はせいめい望遠鏡の立ち上げ期にあたるため、望遠鏡自体がリスクシェアでの公開となります。従って、状況次第では観測割り当てがキャンセルされる可能性があること、割り当て時期に偏りが生じる可能性があること、をあらかじめご承知おき下さい。望遠鏡のトラブルで観測がキャンセルになった場合には、可能な範囲で補填されます。

2. 「Targets of Opportunity (ToO) 観測」実施要項

せいめい望遠鏡では、タイムドメイン天文学を推進する方針に基づき、ToO観測を重視しています。京都大学観測時間内に発動されるToO観測は原則として京都大学時間の公募を通して申請されたToO課題のみです（事前申請型ToO観測）。岡山天文台の責任者（現在は長田、木野）の判断で公募を通さないToO観測を行う可能性もありますが例外的と考えてください（事前にToO申請がないが、ベテルギウスが爆発したというような場合）。今期はせいめい望遠鏡の立ち上げ期にあたり、望遠鏡自体がリスクシェアでの公開となるため、ToO観測は原則として以下の方針に従って可能な範囲で実施します。

1. ToO観測は、原則として事前のプロポーザル提出に基づく事前申請型とする。
2. 研究課題間の優先度は京大内 TAC で定める。
 - 1) ToO 観測は原則として ToO でない観測より優先するが、ToO 観測より優先度の高い観測を設定する可能性は否定しない。特に、time critical な観測はこのような対象になる可能性がある。
 - 2) 複数の ToO 観測の間の優先度は京大内 TAC で定める。

複数の ToO 観測が同日夜に発動された場合には予め定めた優先度に従う。
3. 今期は、事前申請型 ToO 観測は共同利用観測時間内では発動できない。
4. ToO 観測が実施された場合、そこに振り向けられた観測時間は、可能な限り当初予定の観測者へ補償される。
5. ToO 観測は、申請者がプロポーザル内で規定した条件に基づき、申請者が判断して発動する。

- 1) 申請者は事前準備として、京大時間開始（または、申請者が希望している観測期間開始）1週間前までに観測手順書を岡山天文台に提出する。
- 2) 岡山天文台は、採択された ToO 課題のリストとその優先順位を岡山天文台ホームページに掲載する。また、観測手順書も同ホームページにおいておく。
- 3) 申請者はプロポーザルに示した条件を満たす事象について、当該観測夜の観測者へ電話等で連絡を取る。
- 4) 申請者は岡山天文台責任者（と京大内 TAC 委員長？）にも ToO 観測の発動を通知する。（事実把握なのでメールでよい。）
- 5) ToO 観測は原則、当該観測夜の観測者が実施する。時間的に可能な場合、申請者が岡山天文台まで来て観測を実施しても良い。今期は望遠鏡の立ち上げ期にあたるため、当該観測夜の観測者が操作に不慣れなことが予想される。そのため、観測の確実な遂行のためには、観測実施体制をあらかじめ十分に検討の上、申請することを強く推奨する。
- 6) ToO観測では、割当時間数内で、一晩の中で必要とするだけの観測を実施することができる。
- 7) 申請者は、発動条件を守った上で、割当時間数の範囲内で何回でも ToO 観測を発動できる。